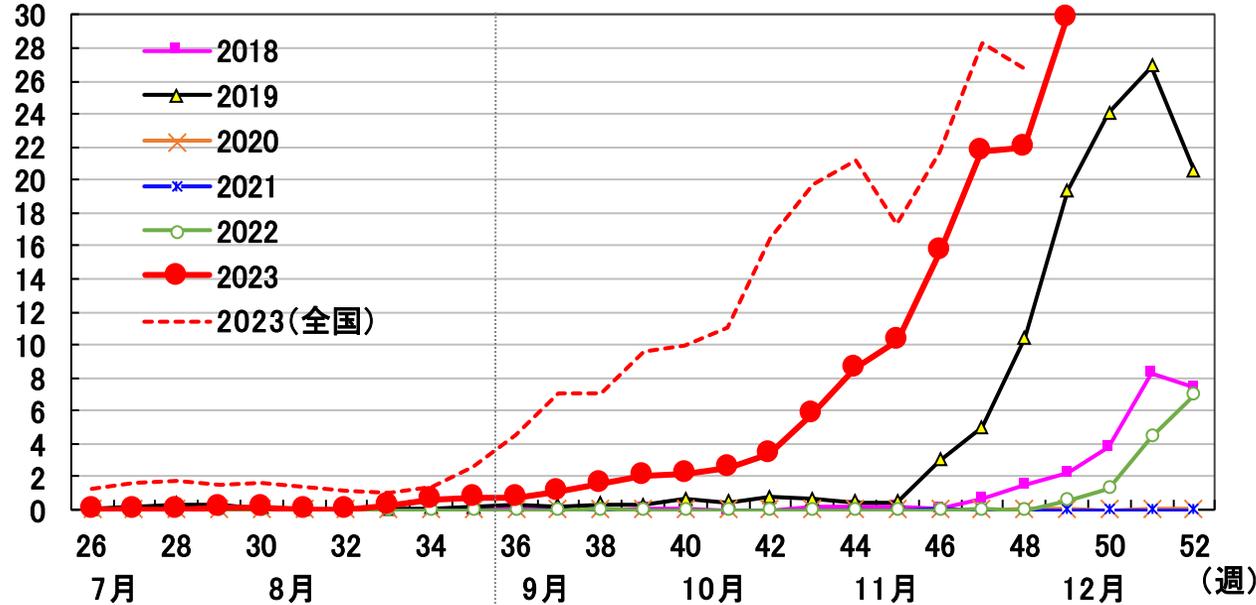


インフルエンザの発生状況(富山県)

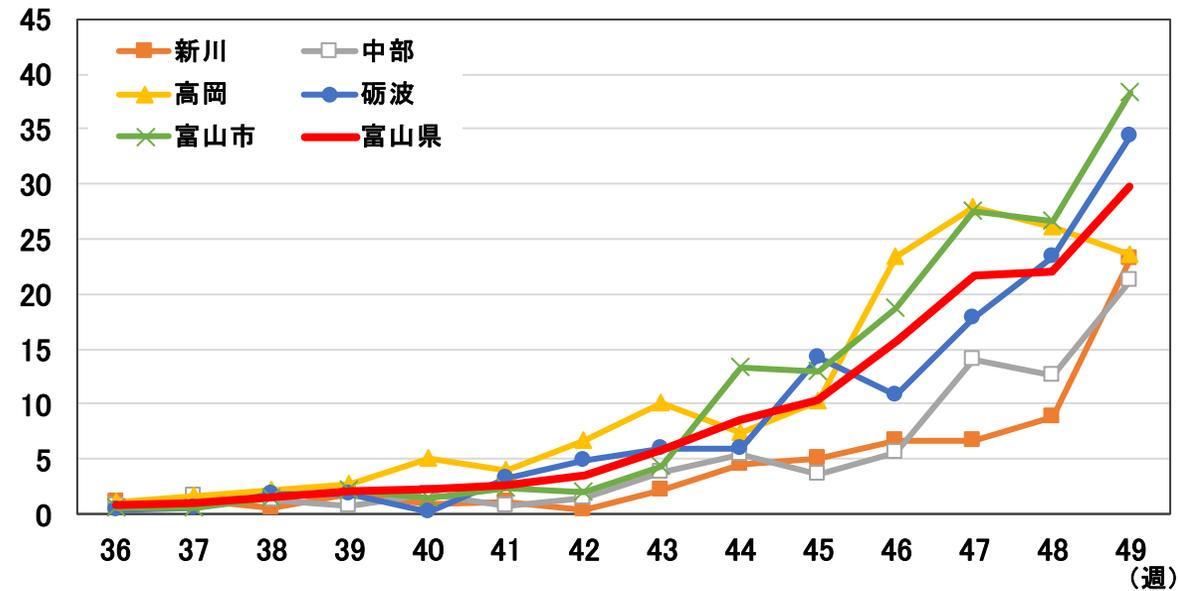
【第49週(2023/12/4~12/10) 感染症発生動向調査速報値 (2023/12/13時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数は今週（第49週）**29.77**人/定点となり、先週（21.96人/定点）から大幅に増加した。
- 厚生センター・保健所別に見ると（図2）、高岡管内を除く4つの管内で先週から大きく増加し、富山市、砺波管内では警報レベルの目安である30人/定点を超えた。

図3. 年代別割合(富山県、第49週)

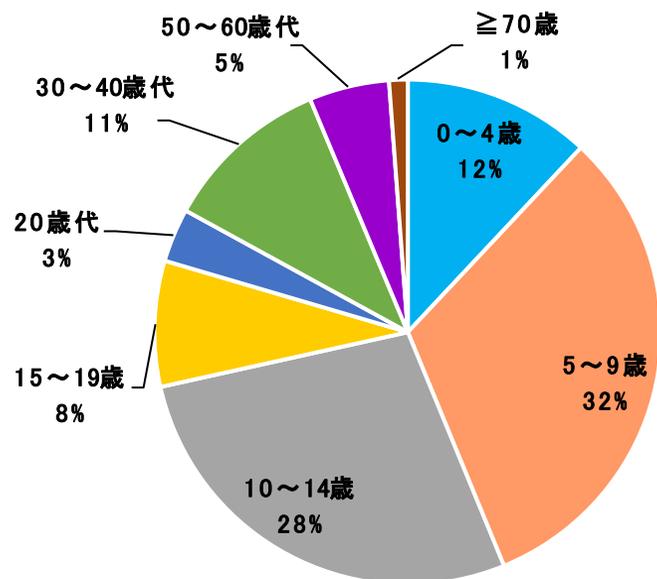
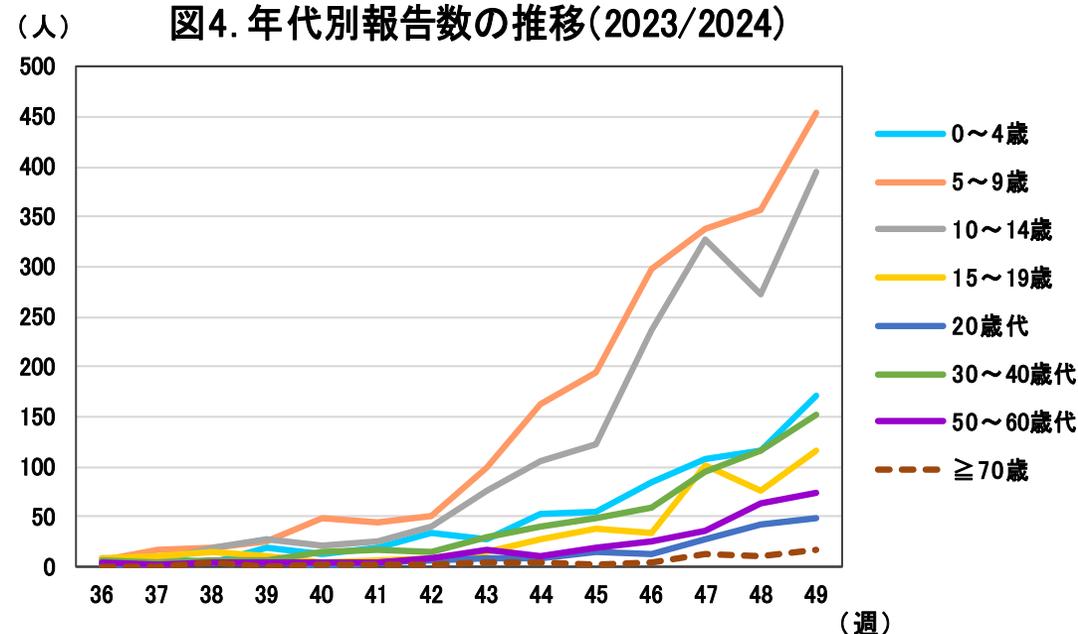


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第49週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が72%を占めた。
- 年代別報告数の推移（図4）では、先週減少がみられた10~14歳（グレー）、15~19歳（黄）で増加に転じ、その他もすべての年代で増加または横ばいであった。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は第49週に51件（小学校38件、中学校8件、高等学校5件）の報告があった。

富山県インフルエンザ関連情報HP：<https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第48週)

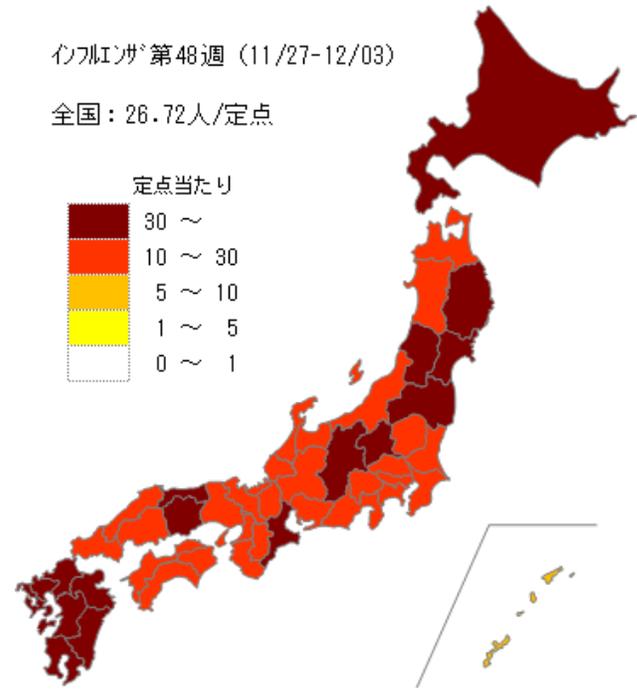
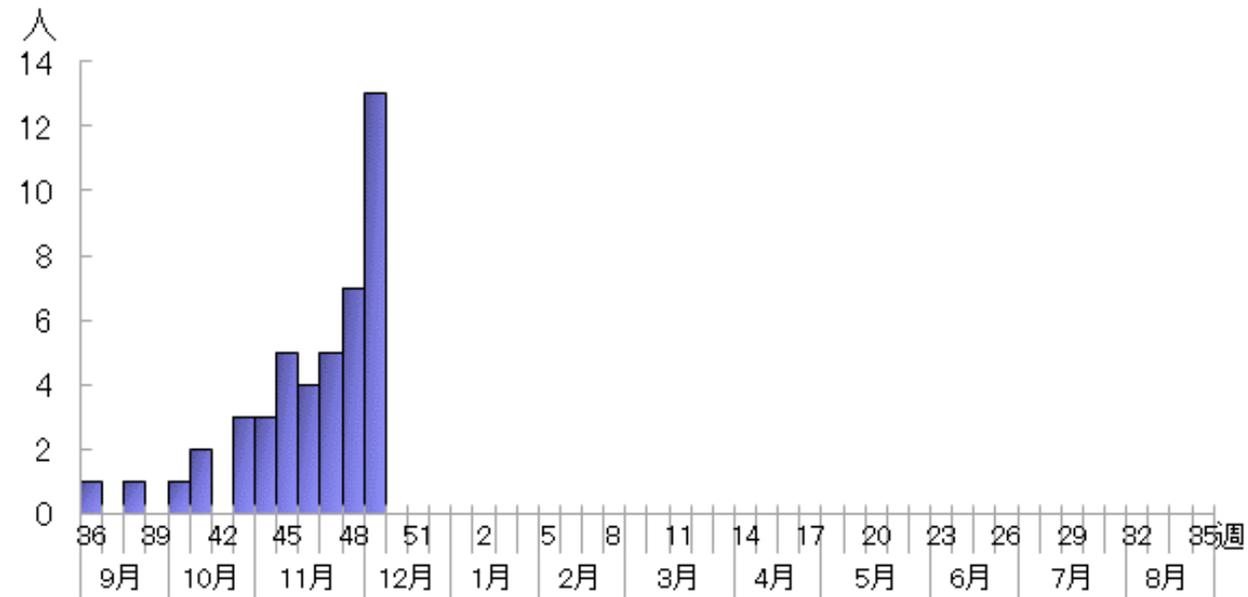


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第49週)



- 全国では第48週に26.72人/定点となり、第47週 (28.30) からやや減少した。都道府県別 (図5) では、沖縄県を除く46都道府県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。また、その内17道県で警報レベルの目安である30人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス (図6) では、第49週に13例の報告 (5歳未満: 1例、5~9歳: 2例、10歳代: 2例、50歳代: 2例、80歳以上: 6例) があった。
- 今シーズンは、例年より早期にインフルエンザの流行が認められた。患者報告数の増加が続いており、今後の発生動向を注視する必要がある。